

第4回 神戸市立中学校標準服のあり方に関する検討会（議事要旨）

○検討会報告書（案）について

（1）保護者の経済的負担について

- ・価格が下がり負担が少なくなることにはある意味賛成だが、「安かろう、悪かろう」では困る。また神戸市の標準服の価格が全国的には決して高くないことも広報すべき。同じ神戸市内の価格の違いについては一考すべきだが、学校によっては複数業者が入っているところで価格の高い方が人気のあるところもある。そうした地域性をどう考えるかも大切である。
- ・経済的な負担を考えるならば、入学支度金等の値段を上げる、もう少し広範囲に補助をするなどの方法も考えられる。
- ・各校で複数の業者が入り、価格や質の違うものが提示でき、保護者が選択できるのがベストではあるが、大規模校のみができる方法であり、全体としては難しい。
- ・価格だけのことを考えると、小売業者を通さなければ価格は下がるはずである。しかしアフターケアや各地域の小売業者のことを考えるとそれでいいのかとも感じる。

（2）国際化や性の多様性について

- ・トランスジェンダーや性別違和を抱える生徒のみが制服を従来とは違った組み合わせ・選択をするという先入観や印象づけにならないように、LGBTQ 配慮といった表現はあまり使わない方がいいように思う。男子用・女子用という表現も用いず、制服 A・B といった呼称にすることもひとつの方法かと思う。
- ・性的マイノリティに配慮したと強く推してしまうと、秘匿しておきたい当事者の生徒は選択・組み合わせの自由を行使出来なくなってしまうこともあることを事前に関係者で共有しておく必要がある。
- ・選択・組み合わせの理由を詮索し、結果としてアウトティング（暴露）につながらないように、教職員間の事前の理解と合意形成が不可欠である、という趣旨を盛り込めないか。
- ・すでに女子のストラックスについては複数の学校で実施しているので、全校に広めていくべき。ただし男子のスカートと同じようにすることが現状、本当に性同一性障害等の子供にとっていいのかは疑問が残る。

（3）神戸モデル標準服の作成・今後の在り方について

- ・検討会議での多様な意見に基づいて従来よりも一層新鮮なイメージで、しかも諸課題に適切に対応した形で、生徒や保護者、学校関係者の方々に、期待に応える「神戸モデル標準服」を提案していきたい、という意志を示してもよいのではないか。
- ・神戸モデル標準服は、価格が現在の標準服とどれくらいの違いが出るのかが大きなポイント。しかし、現在の各校の標準服の愛着等を考えるとあくまでも選択肢の一つとしてしかできないように思う。
- ・1回目の見積り合わせが全校で終わった後に、その検証をしっかりと行い、さらに続けるのであれば、見積り合わせにかかる作業は外部業者が入ったとしても学校の負担は大きく、その効果は薄いので、業者選び等でもっと事務局等のバックアップが必要である。